

陳舜臣さんを語る会通信

NO.30

Mar. 2021

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2021年3月1日

神戸華僑歴史博物館「陳舜臣没後6年桃源忌特別展」開催（続々）

本号では、次のパネル4枚を取りあげました。

■蔡錦墩さんと「台湾省愛郷小組」

■陳舜臣没後6年桃源忌特別展

No.7 業界誌に見える「泰安公司」と家業時代の趣味の活動

No.8 大阪外国語大学同窓会神戸支部総会記念写真
二人の陳さん

No.9 陳家のお正月(1954年)家族写真 布引町2丁目の実家前で

(編集委員 橘雄三)

さい きんとん

蔡錦墩さんと「台湾省愛郷小組」

台湾省愛郷小組の女性たち(1974年頃)



▲右から二番目の女性が蔡錦墩さん



嬉しさを
胸一杯に
初の帰国観光団出発
台湾省婦人ら十七名
北京のメーデーに参加・各地を参観

台湾解放の願いこめ
蔡錦墩ら喜びを語る
「台湾省愛郷小組」のメンバー

▲「留日華僑帰国訪問団」出発を伝える記事
(『華僑報』第591号、1974年5月5日)

台湾省愛郷小組(以下、愛郷小組)は、1973年6月に蔡錦墩さんら神戸在住の台湾出身女性や、台湾人の夫を持つ日本人女性の7人で組織されたグループである。メンバーの内には、曾月娥(陳仰臣さんのご夫人)さんや舜臣・仰臣兄弟のいとこの姿もあった。

1972年に日中の国交が回復すると、日本在住の台湾出身者のうちには、北京政府や在日華僑団体からの働きかけもあり、中国大陆へ親族訪問や見学に訪れるものがいた。陳舜臣・蔡錦墩さん夫妻も、国交正常化すぐ、大陸を訪れている。それは、1950年代に大陸に渡った陳妙玲さん(舜臣の妹)と会うためでもあった。

妙玲は神戸中華同文学校(第4届)の卒業生である。同期生には林麗韞(台湾出身)もいた。麗韞は1951年に神戸から大陸へと渡り、周恩來の日本語通訳を務めた人物としても知られる。愛郷小組の月娥、そして先述のいとこも同級生である。

愛郷小組は結成後、同郷の集まりの場で大陸や台湾の歌などを歌うグループとして活動した。そして1974年5月に大陸訪問を目的として「留日華僑帰国観光団」(団長:蔡錦墩)が結成された際には、愛郷小組のメンバーが同行している。

愛郷小組の結成のから、国交正常化まもなくの日本において、大陸に対する彼女たちの期待のほか、大陸で活躍する親族や同級生への激励の気持ちがうかがえる。

(神戸華僑歴史博物館運営委員制作)

展示資料

右寄り奥。花瓶でしょうか。陳舜臣ご夫妻は、晩年、陶芸を楽しんでいたようです。これは、親族に伝わる作品の一つです。

左寄り奥は、台湾で放映された『憤怒的菩薩(怒りの菩薩)』のDVDです。



ところで、本業が不本意だった陳さん。趣味の活動、どんなお気持ちで参加されていたのでしょうか。

陳舜臣没後6年桃源忌特別展 No.8

大阪外国語大学同窓会神戸支部総会記念写真 二人の陳さん

ここに取りあげたのは、1966年11月29日、神戸の牡丹園で開かれた大阪外国語大学同窓会神戸支部総会の記念写真です。写真の所有者、陳徳仁氏と陳舜臣さんが最後列に写っています。このとき、陳徳仁氏は49歳、陳舜臣さんは42歳です。写真の顔ぶれは、ご高齢の方が多くいようて、お二人は「若輩」と感じられての遠慮か、最後列です。この部分、拡大しておきました。

下の写真、ほとんどの方は鬼籍に入られたと思われますが、懐かしいお顔が見つかるかも。
なお、陳徳仁氏は、当博物館の創設者で初代館長です。



後列、左から二人目が徳仁氏 右端が舜臣さん

於花隈牡丹園 1966-11-29 大阪外大同窓会神戸支部総会

《 二人の陳さん 》

「外語には選科生という制度があった。(中略)

私が外語に入った年、神戸の華僑で広東人の陳徳仁君が、中国語の選科生として入学してきた。年齢は私より六つほど上で、白皙の美青年であった。姓が同じで、おなじ神戸から通っているの、よく間違えられた。(中略)

こうして陳姓の二人が同期生になった。彼はそのころ二十五、六であり、実家は南京町の『博愛』という大きな料理店で、すでに結婚し

ていた。二人の陳を区別しなければならないときは、徳仁さんを、『奥さんのいるほうの陳』と呼んだりしていた。(中略)

このあいだ陳徳仁さんが亡くなった。彼は予定通り卒業後は外語の広東語の講師をしたり、毎日新聞社が出していた『華文毎日』の記者をしていた。だが、終戦によって彼はしばらく華僑社会の世話をしなければならなくなった。

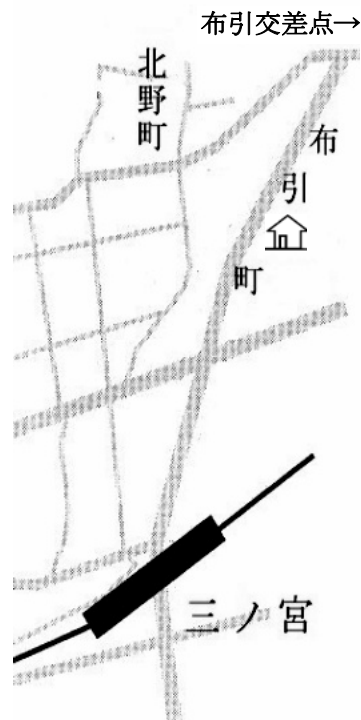
(中略) 華僑社会にはなくてはならない人物であった。」(『道半ば』p.87、88、111)

陳舜臣没後6年桃源忌特別展 No.9

陳家のお正月(1954年)家族写真 布引町2丁目の実家前で



ご両親の右、縦に3人、舜臣さんご夫婦と長男立人さん



陳舜臣さんの戦後は布引町の家で
始まりました

「三年半ぶりに神戸に帰った。
一九四九年の十月は、青天がつづい
たと記憶する。(中略)」

垂水の家から台湾に帰ったが、こん
どは父が新しく買った布引町の家に戻っ
た。どちらも帰ると表現するところが
私の運命だったのである」

(『道半ば』三〇四、〇五頁)

陳舜臣さんは、翌五〇年三月、結婚
し、この布引町二丁目の実家の二階
で、二人の新婚生活は始まりました。



(新婚時代 陳舜臣さんと蔡錦墪さん)

この布引町の実家のお正月は、舜
臣さんら子どもたちが家族同伴で集
まり、大変賑やかだったようです。
陳家には、ここに掲載したのと同
様の年毎の家族写真が、何枚も残っ
ています。

(写真はいずれも個人蔵)

妹・妙玲さん、大陸へ渡る

陳家にとって、さみしくなるでき
ごとがありました。それは、舜臣さ
んの妹・妙玲さんの「帰国」でした。



(出発時の妙玲さん)

妙玲さんは五三年、「祖国建設の
情熱に燃え」とはいえ、まだ、二十
歳になったばかりの若さで家族と離
れ、第一回華僑帰国船興安丸で大陸
に渡ります。中国での最初の仕事は
撫順戦犯管理处での翻訳業務でした。
舜臣さんは、七二年、日中の国交
が回復すると、日本赤十字社が発行
する証明書による探親訪問という形
で、お母さん、弟・介臣さんらと、
当時、北京放送勤務だった妙玲さん
を訪ねます。
その後も、舜臣さんは、中国旅行
の度に、妙玲さんに会う機会を作ろ
うとされたようです。